

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年12月25日 (2008.12.25)

【公表番号】特表2008-518949(P2008-518949A)

【公表日】平成20年6月5日 (2008.6.5)

【年通号数】公開・登録公報2008-022

【出願番号】特願2007-539272(P2007-539272)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/785 (2006.01)

A 6 1 K 31/787 (2006.01)

A 6 1 K 9/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/10 (2006.01)

A 6 1 K 47/38 (2006.01)

A 6 1 K 47/36 (2006.01)

A 6 1 K 47/32 (2006.01)

A 6 1 K 33/24 (2006.01)

A 6 1 P 3/12 (2006.01)

A 6 1 P 7/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/20 (2006.01)

A 6 1 K 9/48 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 3/14 (2006.01)

A 2 3 L 1/30 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/785

A 6 1 K 31/787

A 6 1 K 9/00

A 6 1 K 9/10

A 6 1 K 47/38

A 6 1 K 47/36

A 6 1 K 47/32

A 6 1 K 33/24

A 6 1 P 3/12

A 6 1 P 7/00

A 6 1 K 9/20

A 6 1 K 9/48

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 3/14

A 2 3 L 1/30

Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年10月31日 (2008.10.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

血清リン酸塩を低下させる必要がある被験体において、血清リン酸塩を低下させるための医薬の製造における、少なくとも52ミリモルのリン酸塩結合能力を有するリン酸塩結合剤の使用。

【請求項 2】

リン酸塩結合剤が最も大きい食事の前または後に投与される、請求項 1 記載の使用。

【請求項 3】

リン酸塩結合剤が反復投薬単位として投与される、請求項 1 記載の使用。

【請求項 4】

リン酸塩結合剤が単回投薬単位として投与される、請求項 1 記載の使用。

【請求項 5】

リン酸塩結合剤が少なくとも104ミリモルのリン酸塩結合能力を有する、請求項 1 記載の使用。

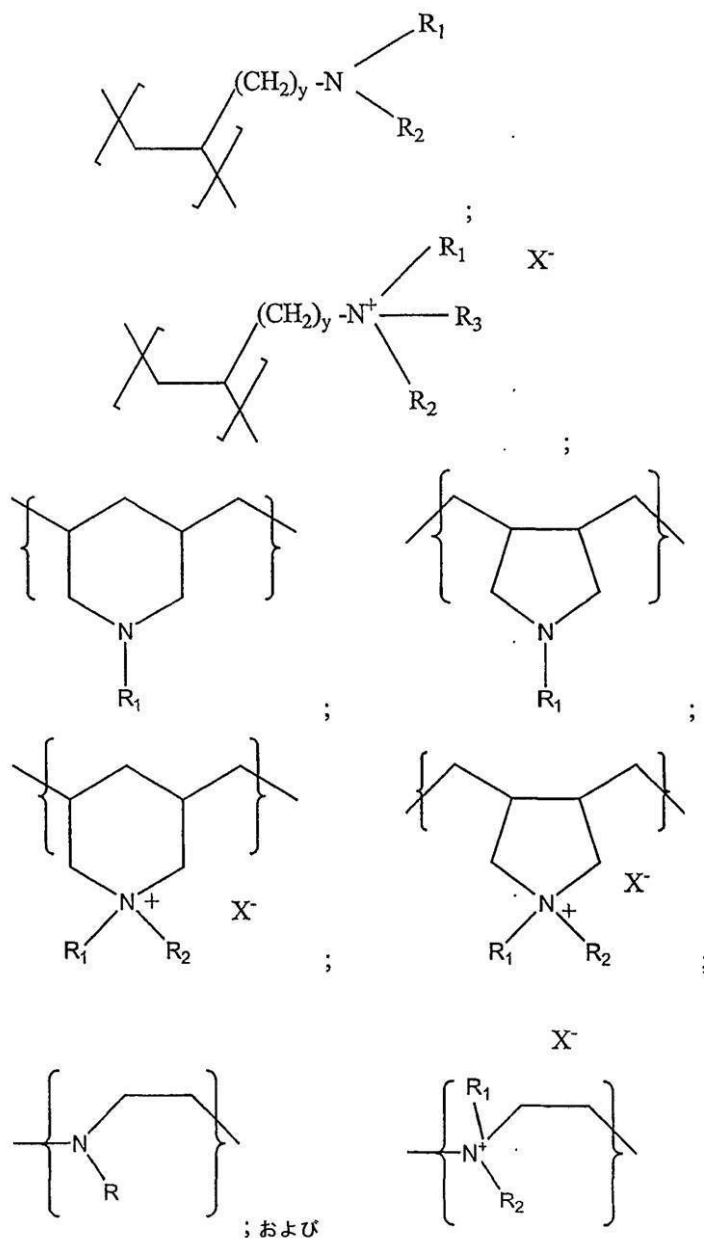
【請求項 6】

血清リン酸塩を低下させる必要がある被験体において、血清リン酸塩を低下させるための医薬の製造における、少なくとも2gの脂肪族アミンポリマーの使用。

【請求項 7】

脂肪族アミンポリマーが、

【化 1】



(式中、

y は0、または1以上の整数である；

R 、 R_1 、 R_2 および R_3 は、独立して、H、置換もしくは非置換のアルキル基またはアリール基である；ならびに

X^- は、交換可能な負に帯電した対イオンである)

からなる群より選択される式で表される1つ以上の繰り返し単位を含む、請求項6記載の使用。

【請求項 8】

脂肪族アミンポリマーが多官能性架橋剤によって架橋されている、請求項7記載の使用。

【請求項 9】

脂肪族アミンポリマーがポリアリルアミンである、請求項8記載の使用。

【請求項 10】

脂肪族アミンポリマーが最も大きい食事の前または後に投与される、請求項7記載の使用。

【請求項 1 1】

脂肪族アミンポリマーが反復投薬単位として投与される、請求項 7 記載の 使用。

【請求項 1 2】

脂肪族アミンポリマーが単回投薬単位として投与される、請求項 7 記載の 使用。

【請求項 1 3】

少なくとも2g～10gの脂肪族アミンポリマーを前記被験体に投与する、請求項 7 記載の 使用。

【請求項 1 4】

血清リン酸塩を低下させる必要がある被験体において、血清リン酸塩を低下させるための医薬の製造における、少なくとも2gのセベラマーの使用。

【請求項 1 5】

セベラマーが最も大きい食事の前または後に投与される、請求項 1 4 記載の 使用。

【請求項 1 6】

セベラマーが反復投薬単位として投与される、請求項 1 4 記載の 使用。

【請求項 1 7】

セベラマーが単回投薬単位として投与される、請求項 1 4 記載の 使用。

【請求項 1 8】

単回投薬単位が、サシェ、スラリー、懸濁液または食品配合物である、請求項 1 2 または 1 7 記載の 使用。

【請求項 1 9】

少なくとも2g～10gのセベラマーが前記被験体に投与される、請求項 1 4 記載の 使用。

【請求項 2 0】

前記被験体に粘膜接着剤を投与することをさらに含む、請求項 6 または 1 4 記載の 使用。

【請求項 2 1】

粘膜接着剤が、セルロース誘導体、トラガカント、カラヤ、合成および天然に存在するガム、ポリビニルピロリドン、ポリビニルアルコール、ならびにポリアクリル酸を含む群から選択される、請求項 2 0 記載の 使用。

【請求項 2 2】

粘膜接着剤がポリアクリル酸である、請求項 2 1 記載の 使用。

【請求項 2 3】

血清リン酸塩を低下させる必要がある被験体において、血清リン酸塩を低下させるための医薬の製造における、少なくとも0.5gのランタン塩の使用。

【請求項 2 4】

ランタン塩が最も大きい食事の前または後に投与される、請求項 2 3 記載の 使用。

【請求項 2 5】

ランタン塩が反復投薬単位として投与される、請求項 2 3 記載の 使用。

【請求項 2 6】

ランタン塩が単回投薬単位として投与される、請求項 2 3 記載の 使用。

【請求項 2 7】

単回投薬単位が、錠剤、カプセル、サシェ、スラリー、懸濁液または食品配合物である、請求項 4 または 2 6 記載の 使用。

【請求項 2 8】

ランタン塩が炭酸ランタンである、請求項 2 3 記載の 使用。

【請求項 2 9】

少なくとも0.5g～5gの炭酸ランタンが前記被験体に投与される、請求項 2 8 記載の 使用。

【請求項 3 0】

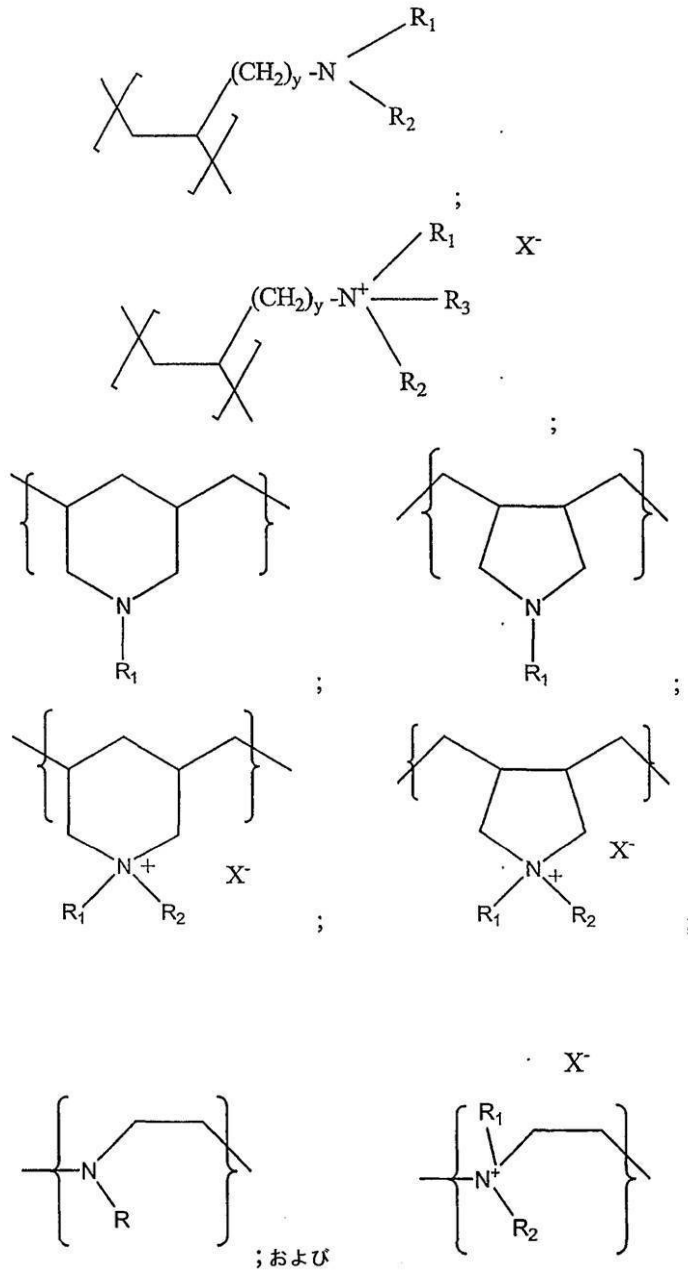
前記被験体に粘膜接着剤を投与することをさらに含む、請求項 2 3 記載の 使用。

【請求項 3 1】

少なくとも2gの脂肪族アミンポリマーまたは薬学的に許容され得るその塩を含み、錠剤、サシェ、スラリー、懸濁液または食品配合物である、経口投薬単位。

【請求項 3 2】

脂肪族アミンポリマーが、



(式中、

yは0、または1以上の整数である；

R、R₁、R₂およびR₃は、独立して、H、置換もしくは非置換のアルキル基またはアール基である；ならびに

X⁻は、交換可能な負に帯電した対イオンである)

からなる群より選択される式で表される1つ以上の繰り返し単位を含む、請求項3 1記載の経口投薬単位。

【請求項 3 3】

脂肪族アミンポリマーが多官能性架橋剤によって架橋されている、請求項3 2記載の経口投薬単位。

【請求項 3 4】

脂肪族アミンポリマーがポリアリルアミンである、請求項 3 3 記載の経口投薬単位。

【請求項 3 5】

経口投薬量が少なくとも2g～10gの脂肪族アミンポリマーを含む、請求項 3 2 記載の経口投薬単位。

【請求項 3 6】

少なくとも2gのセベラマーまたは薬学的に許容され得るその塩を含み、錠剤、サシェ、スラリー、懸濁液または食品配合物である、経口投薬単位。

【請求項 3 7】

経口投薬単位がサシェである、請求項 3 2 または 3 6 記載の経口投薬単位。

【請求項 3 8】

経口投薬量が少なくとも2g～10gのセベラマーを含む、請求項 3 6 記載の経口投薬単位。

【請求項 3 9】

少なくとも0.5gの薬学的に許容され得るランタン塩を含み、錠剤、サシェ、スラリー、懸濁液または食品配合物である、経口投薬単位。

【請求項 4 0】

経口投薬単位が錠剤である、請求項 3 9 記載の経口投薬単位。

【請求項 4 1】

経口投薬単位が少なくとも0.5g～5gのランタン塩を含む、請求項 3 9 記載の経口投薬単位。